

# 万世大路、山形県側と福島県側（二ツ小屋隧道）の現況について

——栗子隧道山形県側坑口の石碑類について(栗子神社の謎)——

万世大路研究会

鹿摩貞男

(大滝会特別会員)

## はじめに

いよいよ万世大路探索のシーズンがやってきました。平成 29 年 5 月 25 日（木）、あいにくの雨模様の天候であったけれども、栗子隧道（山形県側）までと福島県側の二ツ小屋隧道を含む万世大路の道路状況について視察してきたので報告する。また、福島県側の 6 月の最新状況についてボランティア「万世大路を守る会」から情報が寄せられているので併せて報告します。また、栗子隧道米沢側坑口にかつて所在した石碑類について紹介すると共に、「栗子神社」碑の謎について若干の考察を試みてみました。

なお、今年度中（平成 29 年度）の供用を目指し現在仕上げ工事が急ピッチで進められている東北中央自動車道新栗子トンネル（仮称）を見学する機会（6 月 29 日（木））があったのでその進捗状況を併せて報告（写真）する。

## 【栗子隧道(山形県側)まで】

### 山形県側入口について

旧万世大路（旧国道 13 号）のうち米沢市刈安字川越石の旧道分岐点の入口から滝岩上橋(写真-1①)までの約 2 km は米沢砕石（株）の敷地となっているので注意する必要がある。分岐点から少し進んだところにはゲートが設置されていて、原則的に平日（8:30～17:00）以外は閉鎖されており車両の出入りは困難になる(写真-1②)。



写真-1① 滝岩上橋(明治初代名称:滝ノ岩橋(石橋 L=12 間・21.8m、W=4 間・7.3m))。米沢側から福島側を望む。昭和 7 年 9 月完成(山形県施工)。奥の白い標柱は明治天皇御野立(おのだて)の地 瀧野沢、昭和の大改修 L=14.4 km(S8.4～S12.3)終点。



写真-1② 米沢砕石(株)ゲート、施錠 H231113(日)

この2 km区間は、基本的に旧道を改修したものと思われるがその面影はほとんどなく碎石運搬車（ダンプ）の運搬路となっていて結構頻繁にダンプが通行し重機が稼働しているので要注意である。途中で会社の現場事務所があるので声をかけて行った方がよい。登山者名簿も用意されているようだ。

山形県側では、車両の通行は原則的にその滝岩上橋までで以降の約4 kmは徒歩となる（すぐ上にゲートがあり一般車は通行止め）。今回、栗子隧道まで倒木などの障害物や残雪はほとんど無く通行が可能となっている。大きな倒木は市民ボランティアにより除去されていた。小さい枯れ枝等が道路脇にあるけれども通行に支障はない。米沢市万世地区にある「歴史の道・土木遺産万世大路保存会」（梅津幸保会長、以下「保存会」）におかれては、6月の初めに道路の除草をおこなったと聞いている。毎年実施されているとのことで、大変歩きやすい道となっている。また、隧道前の広場も日頃から良く整備されているようで、今シーズン初めて来たけれども見通しも良く見学には最適の状況となっている（写真-2①～③）。



写真-2① 並んで佇む「栗子隧道」(米沢側坑口)  
右側初代:明治14年(1881年)9月完成。  
左側2代目:昭和11年(1936年)8月完成



写真-2② 昭和期栗子隧道、米沢側坑口。  
工事期間:昭和9年5月～昭和11年8月。  
L=870m、W=6m(有効幅員)、H=4.5m(有効)・  
5.1m(中央)H290525



写真-2③ 明治期栗子隧道(栗子山隧道)と右側栗子川  
源流・仮称栗子母智丘神社跡」。(工事期間:  
明治9年12月～明治14年(1881年)9月。  
L=482間・876.3m、W=3間・5.5m、  
H=2間・3.6m)。

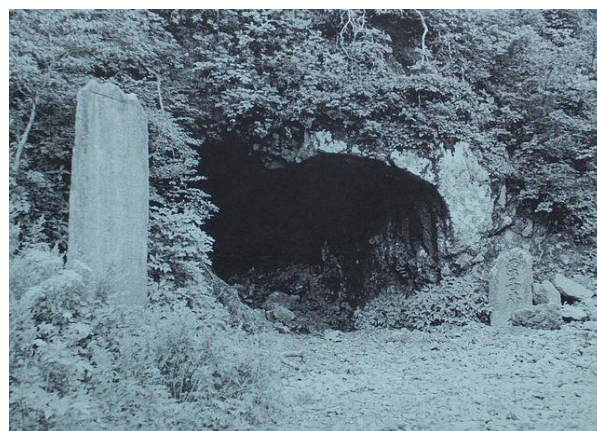
旧万世大路山形県側ではかねてより「保存会」の皆様により、それぞれの旧跡等に案内標柱やベンチ等を設置していたが、また新に追加設置されているものもあるようだ（例えば山形県側唯一の掘割（切通し）箇所案内標柱など）。

## 坑口の石碑類

初代明治期栗子隧道米沢側坑口にはかつて各種の石碑が建立されていたけれども(参考写真-1①~⑥)、昭和 42~44 年にかけて下に移設され、現在は他の石碑と共に刈安に所在する「萬世大路記念碑公園」に納まっている(写真-3)。



参考写真-1① 昭和 11 年頃、新旧栗子隧道山形県側。左端「明治大帝御駐輦之地」碑・中央「栗子隧道碑記」の碑・右側「栗子神社」碑(昭和 11 年改築記念絵はがき『萬世の大路』第 21 号 H29.3 より転載。(歴史の道土木遺産萬世大路保存会提供))



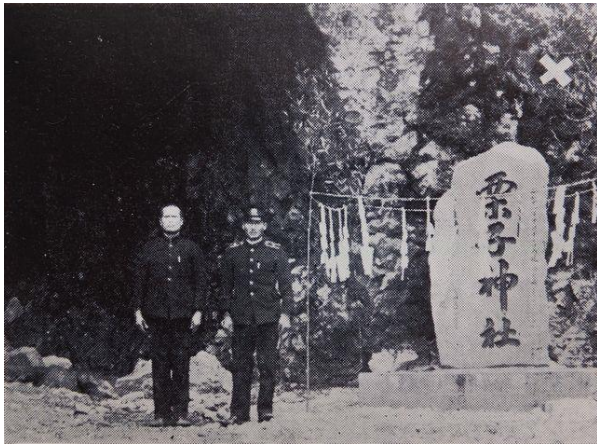
参考写真-1② 新国道 13 号(栗子ハイウェイ)開通後(S41.5.29)の昭和 41 年 9 月頃の初代栗子隧道米沢側坑口。(「万世大路開通 130 周年記念フォーラム資料より」)



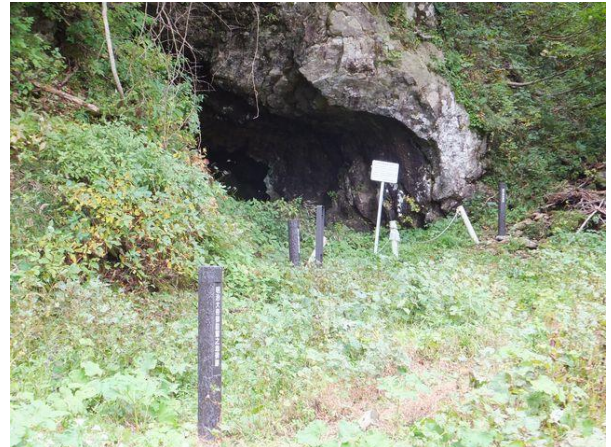
参考写真-1③ 「明治大帝御駐輦之地」碑(大正 11 年 11 月栗子隧道米沢側坑口に建立(萬世大路記念碑公園)。『建設月報とうほく』(1991 年(平成 3 年)11 月号)H241006)



参考写真-1④ 「栗子隧道碑記」の碑、高さ 3.7m(推定)、下幅 138 cm(実測) 厚さ東側(写真右) 36 cm、西側 32 cm。明治 15 年 1 月建立(初代栗子隧道米沢側坑口)。現在国土交通省栗子国道維持出張所構内(米沢市板谷)にあり。H270429



参考写真-1⑤ 「栗子神社」碑 明治期隧道工事の際に建立された檜造りの神祠(×箇所、受持神(豊宇気毘売神)を勧請、大久保利通公・上杉鷹山公配祈)が腐朽した為、それに替わり「栗子神社」と命名し石碑を建立(昭和11年10月17日、三島通庸元県令合祀)。



参考写真-1⑥ 初代明治期栗子隧道米沢側坑口。案内標柱設置(H28.9.19「歴史の道・土木遺産万世大路保存会」)、左から「明治大帝御駐輦之地」碑(行在所跡)、「栗子隧道碑記」の碑、(三島県令和歌表示板)、「栗子神社」碑。H281011



写真-3 萬世大路記念碑公園。左から「明治大帝御駐輦之地」碑(大正11年11月栗子隧道米沢側坑口に建立)・「明治天皇御駐輦地」碑(大正11年11月、刈安字川越石に建立)・「栗子神社」碑(昭和11年10月17日、同上坑口に建立)・「萬世大路改築記念碑」(昭和12年3月建立、栗子隧道福島側坑口)

なお、「栗子隧道碑記」の碑は、米沢市板谷にある国土交通省福島河川国道事務所栗子国道維持出張所構内にある。それらの移設された石碑のかつての設置箇所には案内標柱が設置(H28.9.19「保存会」)されている。隧道に向かって左から「明治大帝御駐輦之地」碑(「明治大帝之碑」)、「栗子隧道碑記」の碑、「栗子神社」碑である(参考写真-1①、②、⑥参照)。

ここではその各石碑について設置・移転経緯等について若干紹介しておきたい。

(1) 「明治大帝御駐輦之地」碑(大正11年11月 初代栗子隧道米沢側坑口前に建立)

「明治大帝之碑」とも通称されるこの碑の表面には、「明治大帝御駐輦之地」とあり、左端には「風景の壮大なるを賞志給ふ」、下端には「栗子(隧道)」と刻されている。裏面は建立年月「大正十一年十一月建」となっている。(参考写真-1③参照)

これは、当時の郡会議員我妻安雄氏が発起人となり、青年団事業として大正11年(1922年)11月栗子隧道米沢側坑口前に建立したものであるという(『萬世郷土史』『万世大路開通130周年記念フォーラム』H23.10.2 配付資料(「保存会」当時梅津幸保副会長))。

明治14年(1881年)10月3日、折から東北巡幸中であつた明治天皇はこの日栗子新道(のち万世大路と命名)の開通式にご臨席された。その際御小休所として新に建てられた「行在所」(天皇陛下が外出されたときの御宿泊所または御休憩所(参考写真-2))でお休み(御昼餐)されたも

のである。



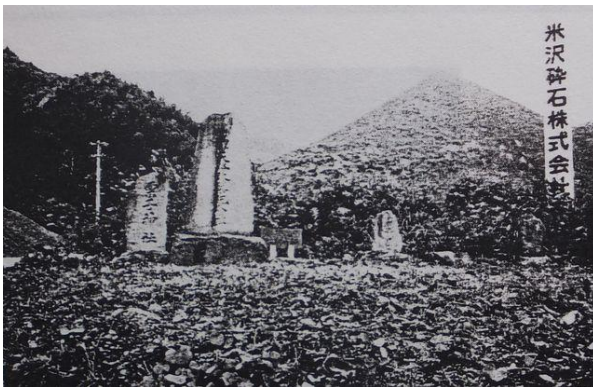
参考写真-2 「南置賜郡栗子隧道 西口(米沢側)。  
坑口(奥)と行在所(手前)が見える  
(「菊地新学山形県写真帖」明治 14 年)  
山形県立図書館蔵

従って、この御駐輦碑はその行在所の跡に建立されたものであろう。

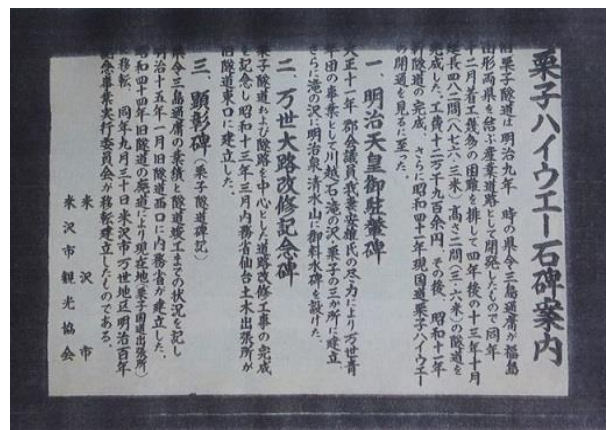
大正 11 年 (1922 年) 11 月には、この他に川越石小休所跡および滝岩上橋の瀧野澤<sup>たきのさわ</sup>の御野立<sup>おのだて</sup>(天皇の野外の休憩所)跡にも「明治天皇御駐輦碑」が建立されている(写真-1①参照)。この年に何故建てられたかは分からない。

明治天皇は、1852 年 (嘉永 5 年) ご誕生なので生誕 70 年を記念したとも考えられるし、前年の大正 10 年 (1921 年) は明治 44 年 (1881 年) 10 月の明治天皇の栗子ご通輦から 40 年の節目の年でもある。11 月 3 日は、旧明治節 (明治天皇のお誕生日) でもあることから大正 11 年 11 月に各石碑が設置されたものであろうか

これらの碑、①「明治大帝御駐輦之地」碑、②「明治天皇御駐輦碑」(川越石) 及び後述の③「栗子神社」碑、それと本稿では触れないが栗子隧道東側 (福島側) にあった④「萬世大路改築記念碑」(「昭和の大改修 (S8.4~S12.3)」竣工記念、昭和 12 年建立) の 4 基については、昭和 44 年 8 月 1 日、2 日に亘って米沢市刈安字川越石の新旧国道 (13 号) 分岐点に移転されたとされている(参考写真-3①②)。



参考写真-3① 万世大路関連記念碑移転地全景(米沢市刈安字川越石旧道分岐点)。  
左から栗子神社碑・萬世大路改築記念碑・明治百年記念碑(移転記念碑)・明治大帝御駐輦之地碑・明治天皇御駐輦碑(『建設月報とうほく』1991 年 11 月号から転載)



参考写真-3② 『栗子ハイウエー石碑案内』萬世大路記念碑公園 平成 9 年頃 (旧移設地新旧国道分岐点から移設か)

これは、昭和 42 年 (1967 年) が明治百年の節目の年となることから、その記念行事として刈安から栗子隧道までの万世大路関連の記念碑類を集約することとしたと云う(『萬世郷土史』昭和 52 年 8 月、『萬世の大路』第 7 号 H21. 10. 5)。

その移転事業の記念石碑「明治百年記念」には次のように刻されている（裏面）。

昭和四十四年八月一日二日移転 九月三十日建立

旧国道西東隧道口<sup>より</sup>依移転

移転総経費五拾八萬円也

実行委員長 萬世公民館長 安部泰助

萬世地区明治百年記念実行委員会

なお、余談になるけれどもこの石碑移転に関して次のような情報もある。

平成 8 年（1996）11 月 7 日、栗子国道改築（栗子ハイウェイ）工事に携わった旧建設省職員により栗子国道開通 30 周年（昭和 41 年（1966 年）5 月 29 日開通）を記念した「栗子会」が開催されている（昭和 61 年 11 月 7 日には開通 20 周年記念の「栗子会」が開催されている）。

この行事の一環として旧建設省福島工事事務所（現国土交通省福島河川国道事務所）の栗子改築工事に関係した歴代事務所長の座談会が実施されている。その中で、開通時の事務所長（在任期間 S40. 8～S42. 11）が次のような趣旨の発言をされたと聞いている。

「栗子隧道の前には石碑類があり将来だれも行かなくなるから持って来た方がよいということで刈安の新旧国道分岐点にまとめて下ろした。歴史の先生などに相談したら多分下ろせなくなるだろうから無断で持ってきた。」

当該事務所長は昭和 42 年 11 月までしか在任していないので、それまでに石碑類を下げたということになり（移転石碑の種類や数は不明）、前述の明治百年事業で昭和 44 年 8 月に下げた話と矛盾することになるけれども参考までに記しておく。

そして、分岐点に集約された石碑は、近くの国土交通省刈安除雪ステーション脇の駐車帯に、平成 2 年（1990 年）11 月 2 日に開園した「萬世大路記念碑公園」に移設されたという（『建設月報とうほく』（1991 年（平成 3 年）11 月号））。

また、話しがややこしくなるけれども「栗子神社」碑の移転時期については次のような話題もあるので参考までに記しておきたい。建設省福島工事事務所が昭和 43 年（1968 年）7 月に発行した『栗子トンネル工事誌』（編集後記・印刷同年 3 月、以下『工事誌』）に栗子隧道米沢側の写真が掲載されている（13 頁、参考写真-4①）。この写真の撮影時期は明記されていないけれども、本書が昭和 43 年 3 月には印刷にまわっていること、左側 2 代目昭和の隧道坑口左側にあった「福島県」の案内標識が（参考写真-4②）撤去されており開通後（昭和 41 年 5 月 29 日）のものであることが分かるので、撮影時期は昭和 41 年 6 月～昭和 43 年 3 月の間と限定されるであろう。



参考写真-4① 栗子隧道山形県側。昭和 42 年夏頃か。  
右側初代：明治 14 年（1881 年）9 月完成。  
左側 2 代目：昭和 11 年（1936 年）8 月完成  
『工事誌』から転載。



参考写真-4② 今では考えられない栗子隧道坑口（山形県側）記念写真。昭和 31 年 8 月 19 日、中野村青年団と共に 大滝会高野英治副会長撮影提供。左側に《福島県》の案内板が見える。

この写真の右側初代明治の隧道坑口には次に記述する「栗子隧道碑記」の碑（左側）と「栗子神社」碑（右、影になり不鮮明）が写っているのが分かる。開通後の9月に撮影された写真(参考写真-1②参照)或いは昭和11年に撮影された写真(参考写真-1①参照)にも間違いなく写っている。この写真の撮影時期は、上記を勘案すると昭和42年の夏頃と考えられ、撤去時期はそれ以降ということになるだろう。前記した福島工事事務所長の移転時期の記憶昭和42年というのもあり得ると云うことになる。

(2)「栗子隧道碑記」の碑（明治15年1月 初代栗子隧道米沢側坑口前に建立）。

明治期の栗子隧道工事に関して記された石碑で、隧道の米沢側坑口に建立されていた（現在は、福島河川国道事務所栗子国道維持出張所構内（米沢市板谷）に移設されている。参考写真-1④参照）。碑文の内容は、栗子隧道の工事報告にとどまらず、なぜ万世大路の建設が必要であったか、当時の東北はもとより日本全体を俯瞰したうえで山形県内の社会情勢・道路状況等を述べ、道路完成後の交通状況などまで記している。また、万世大路の名前の由来について記すと共に、三島通庸山形県令（県知事）や事業実施上の総務や工事、測量などの各担当責任者をも顕彰しているものである。その山形県の担当者は、工事責任者：高木秀明土木課長（後福島県伊達郡長）等、会計係：城親良等、測量設計係：中村章重、庶務担当：村上楯朝・南村山郡長（後福島県大書記官）、地元区長齋藤篤信（後山形師範学校の初代校長）等である。これらは、明治15年（1882年）1月の日付で刻されている。

この碑文は、三島通庸県令の記録係であった山形県職員（後福島県職員）の伊藤十郎平の著した『栗子山隧道工事始末記』等を基に、当時著名な漢学者の重野安繹（<sup>しげのやすつぐ</sup>編修副長官従五位）により起草されたものである。また、碑の上部にある篆額（<sup>でんがく</sup>題字）は、有栖川宮熾仁親王（<sup>ありすがわみやたるひと</sup>陸軍大将兼左大臣二品大勲位、元倒幕軍「東征大総督」）の揮毫による。熾仁親王は、徳川14代将軍家茂に嫁した（文久2年（1862年）和宮降嫁）孝明天皇の妹宮和宮（明治天皇叔母）の元許嫁としても知られる。また、明治天皇の東北巡幸の供奉員として明治14年10月3日栗子新道を越えている。

碑文は、漢文（1714文字）で表裏に刻されている。原文及び訳文は下記サイトを参照されたい。

<http://ootaki.xsrv.jp/betsuzoe-1.pdf> 「栗子隧道碑記」（22頁）

※訳者：佐々木 幸（福島市在住漢文先生） 注釈：小林泰夫（建設省福島工事事務所調査課長） 『栗子トンネル工事誌』（1968年（昭和43年）7月、建設省東北地方建設局福島工事事務所）から転載したもの。

また、原文（漢文）については三島文書（『山形県史資料篇二』明治初期下 207頁、以下「三島文書」と云う）にも所収されている。

なお、この「栗子隧道碑記」の碑の移設時期は、福島河川国道事務所側に資料はなくはっきりしない。当時のキーパーソン的な栗子国道（維持）出張所長さん達は鬼籍に入られている。また、事情を知ると思われる関係者に尋ねてみたけれども皆さん記憶にないとのことであった。かくいう筆者もこの移転時期と思われる頃は福島工事事務所（現福島河川国道事務所）に在籍しており栗子関連の工事も引き続き担当していて、栗子国道（維持）出張所にも度々行っているけれども全く記憶がない。出張所にその石碑があると云うことを知ったのは随分と後のことである。

この時期については、萬世大路記念碑公園、元々は新旧国道分岐点の石碑類移転先にあったと

思われる旧説明版（米沢市、米沢市観光協会）によると「昭和 44 年 9 月 30 日、米沢市万世地区明治百年記念実行委員が移転建立した」（現在地栗子国道維持出張所に）と書かれていた（**参考写真-4②参照**、前掲「万世大路開通 130 周年記念フォーラム」H23. 10. 2 配付資料にも昭和 44 年 9 月 30 日移転とあり）。

(3) 「栗子神社」碑（昭和 11 年 10 月 17 日 初代栗子隧道米沢側坑口前に建立）

「栗子神社」碑は、明治期初代栗子隧道工事の際に建立された<sup>ひのき</sup>檜造りの<sup>しんし</sup>神祠（<sup>もちお</sup>母智丘神社・<sup>うけもちのかみ</sup>受持神（<sup>うけもちのかみ</sup>保食神）を<sup>かんじょう</sup>勧請、大久保利通公・上杉鷹山公<sup>はいし</sup>配祈）が腐朽した為、昭和の大改修（S8. 4～S12. 3）の際にそれに替わり「栗子神社」と命名し石碑を建立（昭和 11 年 10 月 17 日、三島通庸元山形県令合祀）したものである。

その石碑建立の経緯については『栗子トンネル工事誌』（建設省福島工事事務所 昭和 43 年（1968 年）7 月、以下『工事誌』）に次のように記されている（蛇足であるが本誌の編集にあたっては、編纂委員会の最年少編集幹事として筆者も参加している）。

「……、栗子隧道の碑記に竣工後トンネル西口には<sup>ほこら</sup>ほこらを建てて、大久保内務卿及び上杉鷹山君の霊を祭ったとあるように、昭和 9 年栗子トンネル改築工事に着手した当時は、この<sup>ほこら</sup>ほこらは腐朽はしていても大体の原形を残してあった。宮はひのき材を用いた方 1m 位の立派な造営であったが破損崩落したので写真-40（注：本稿**参考写真-1⑤参照**）のように<sup>ほこら</sup>ほこらの直下に栗子神社と命名して昭和 11 年 10 月 17 日碑を建立し三氏の冥福を祈った。」（1252 頁）

この引用文の記述は、『工事誌』の編集者で「昭和の大改修」にも携わられた星菊助氏（宮城県登米市（旧柳津町）出身、S51. 2 他界享年 77）によるものであろう。氏は当時の内務省福島国道改良事務所の書記官（事務官）であるが、改修工事の調査計画等にも深く関与されていたと聞いている。「栗子神社」碑の建立経緯についてもよく知る立場にあったと思われる。

「栗子神社」碑の前身となる最初の<sup>ほこら</sup>ほこら（以下「栗子母智丘神社」（くりこもちおじんじゃ）と仮称す）を建立した経緯について三島文書「栗子新道工事始末第 2 回記」（明治 15 年 2 月の日付で元山形県九等属、著述当時福島県八等属伊藤十郎平が著したもので伊藤は三島の記録係である）は次のように伝えている。

「後ニ隧道西口南ノ山上ニ<sup>しんし</sup>一ツノ神祠（神を祭る建物<sup>やし</sup>社、仮称栗子母智丘神社のこと）ヲ建立ス。則チ母智丘神社（後述）祭ル<sup>ところ</sup>所<sup>かんじょう</sup>受持神ヲ<sup>かんじょう</sup>勧請ス（神仏の分霊を請じ迎えまつること）。初メ工事ヲ起スヤ山ヲ穿テ隧道トナスハ山ノ石質ニ依ル。質<sup>やわらか</sup>軟<sup>ぎ</sup>ス過レハ崩壊、隧道トナスヘカラス。堅ニ<sup>かたき</sup>過<sup>すぎ</sup>レハ工事ニ<sup>かたし</sup>難ム（むずかしい）。而シテ穿テ山ニ入ル前途其ノ質変スル坐シテ之ヲ知ルヘカラス（トンネルの掘削前には調べる手段もなく地質の状態がわからない）。故ニ令公（三島通庸山形県令のこと）誓ヲ起テ以テ<sup>しんし</sup>受持神ニ<sup>しんし</sup>祈ル。而シテ今大業全ク成就スルヲ得タリ（そうして今栗子隧道の大工事が無事安全に終了した）。故ニ此<sup>このくわだて</sup>企（栗子母智丘神社の建立）アルナリ。又タ<sup>ま</sup>配祈（併せておまつりすること）スルニ贈右大臣内務卿大久保利通公及ヒ上杉鷹山公ヲ以テス。利通公は維新ノ大功臣、政化（明治維新の恩恵）ノ奥羽邊土（東北地方の隅々まで）ニ<sup>あまね</sup>洽<sup>あまね</sup>キ（広くゆきわたること）ヲ念トシ、且専ラ工事ニ傾ク。又タ鷹山公ハ上杉氏ノ先代ニシテ諸侯中ノ賢君ナリ。在世専ラ心カヲ国政ニ勞



シ特ニ国産（地元の特産物）ヲ<sup>しみん</sup>士民（武士と庶民）ニ勸奨シ中ニ就テ（なかんづく、なかでも）蠶糸（蚕の繭からとった糸、絹糸）ノ業ヲ開キ今日ニ至リ<sup>ますます</sup>益盛大、令公常ニ之ヲ欽慕ス（敬い慕うこと）。而シテ其ノ盛大ナルモ其産ヲ他ニ輸スル其便ヲ取ルノ道路ナシ。公又タ常ニ之ヲ恨トナス。今ヤ隧道成就<sup>おおい</sup>大ニ其志ヲ達ス。故ニ亦タ此設ケアル所ナリ（栗子母智丘神社建立の所以である）。……以下略」。(198 頁)

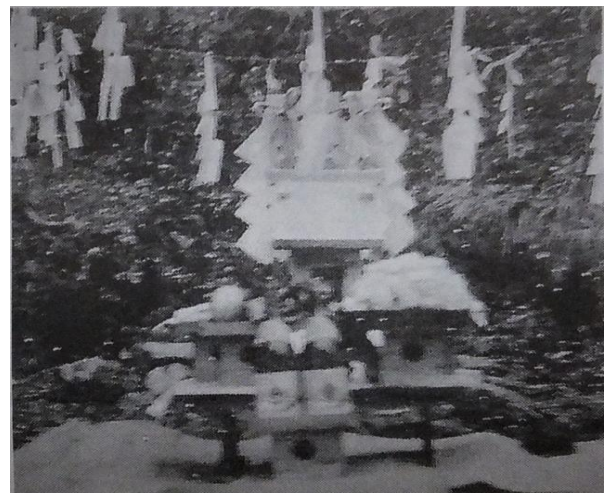
（句読点、ルビ、アンダーライン、カッコ内注書き筆者）

これの大意としては念のため記せば次のようになるだろう。

「明治時代のトンネル工事は（現在のようにボーリング調査を実施して事前に地質を確認できるわけではなく）とにかく掘削してみなければトンネル自体を建設出来るかどうかさえ分からないものであった。そこで当時日本はおろかアジア最長となる初代栗子隧道建設（L=876.3m）の大工事に着手するにあたり、三島通庸山形県令は自らが創建した<sup>れいげんあらた</sup>霊験灼かなる母智丘神社（宮崎県都城市横市町）に工事の安全祈願をおこなった。その結果隧道工事は、明治 14 年 9 月無事安全に竣工することができた。当時の技術力からいって死亡災害がなかった（三島文書 203 頁）のは奇跡的でさえある。ここに母智丘神社を栗子隧道坑口（米沢側）に勧請することとしたのであった(参考写真-5①②)。



参考写真-5 ① 仮称栗子母智丘神社(拝殿と奥の院(右上石造祠))「南置賜郡万世新道ノ内栗子隧道西口ヨリ豊受姫尊神社ヲ望ム図」《山形県、福島県、栃木県 道路写生帖》石版画手彩色」明治 18 年 山形県立図書館蔵



参考写真-5 ② 仮称栗子母智丘神社奥の院(昭和 11 年改築記念絵はがき『萬世の大路』第 21 号 H29.3 より転載。(歴史の道土木遺産 萬世大路保存会提供)

御祭神は受持神で、東北開発に情熱をかけて取組んだ故大久保内務卿（長官、明治 11 年 5 月 14 日紀尾井町事件で暗殺）と地元米沢藩の産業を興し地域振興に尽くした第 9 代藩主上杉鷹山公を併せてお祀りすることとした。この二人は、三島県令が尊敬する人物であった。」栗子母智丘神社（仮称）は、前述のように「ひのき材を用いた方 1m 位の立派な造営」(参考写真-5①参照)であったという。また、「栗子の伝説」によれば、神社は「本殿が間口 15 尺（約 4.5 m）、奥行き九尺（約 2.7m）、別に拝殿 3 尺（90 cm）四方の神床（床の間）付きであった」そうである。また、神社跡地からは、神社の飾り金具と思われる銅板が見つかったという（『萬世の大路』第 21 号 H29.3）。「本殿」の大きさは現地の状況（急傾斜地）から考え難いけれども「拝殿」と称している方の寸法は「栗子母智丘神社」にはほぼ合っている。「栗子の伝説」については他にも

興味のある記述があるので今後の究明を待ちたい。

なお、**参考写真-1①・⑤**、**参考写真-5②**（栗子母智丘神社奥の院）には、いずれにもしめ縄が飾られており同一時期（昭和11年10月）の写真と思われる。拝殿は腐朽倒壊したけれども石造祠の奥の院の方はそのまま改めてお祀りしたものであろう。『工事誌』（1240頁）には、参考写真-5①と同じものと思われるもの（モノクロ）が掲載されているけれども（上側部分（奥の院部分）はカットされている）「今は栗子山頂に小さい石室があるだけである」とのコメントがあるが、この残っていたその石造祠を指しているのではなかろうか。現在その祠は見当たらない。

以上の経緯をもって栗子神社碑は建立されたものである。坑口前から「萬世大路記念碑公園」への移設の経緯については前述のとおりである。

なお、筆者の力不足にて大変分かりにくいと思うけれども、宮崎県都城市に鎮座する宗社母智丘神社とその御祭神（豊宇気毘売神）、栗子母智丘神社（仮称）に関連して**別添「解説資料」**（「**栗子神社（栗子母智丘神社）の謎**」）として整理してみたので興味を持たれる向きにはご一読して頂き、さらなるご教授を賜ればありがたく存じます。

ここまで旧万世大路山形県側の状況について述べてきたが、保存会の皆様のボランティア活動により良好な道路状況となっていることに感謝申し上げたい。

この時期には各種の山野草等も見ることができる（**写真-4①～④**）。



写真-4① ニリンソウ(ニ輪草)



写真-4② ワサビ(山葵)



写真-4③ サンカヨウ(山荷葉)



写真-4④ ウツギ(空木)